

半導体漫遊記

⑤1

湯之上隆

昨年末の12月20日、新潟県長岡市の中小企業が集まりで講演した。

『MAKERS』(NHK出版)を参考に論じた。

『MAKERS』の内容は衝撃的である。

長岡は、同志社大学の教員時代に、兼任で長岡技術科学大学の客員教授を7年間務めた。主催者はNPO法人「長岡産業活性化協議会」(Nagasaki Activative Energy:通称NAZE)。講演では、中小企業がビジネスを拡大する方法を、クリス・アンダーソン

「ほぼあらゆるものをつくる」ことを目標として工房「ファブラボ」を立ち上げた。ファブラボでは、3Dプリンタやレーザーカッターにより、複雑な構造の3次元立体加工が実現できる。現在ファブラボは、世界20か国

に50か所以上存在している。日本にも、鎌倉市、つくば市などにある。

何が衝撃的かという点、ファブラボを利用すれば、「たった一人

「たった一人でもメーカー」が実現

工房「ファブラボ」

は、「世界に一つだけの私だけの一品」はつくることができない。ファブラボを利用した「たった一人のメーカー」ならば、これが可能になる。このような

が発達している現代において、自分から探していくのではなく、Googleなどの検索で探し当ててもらったことが効果的である。例えば、私が貴金属

そして、選択方式の質問に答えていけば欲しいアクセサリーの仕様書ができるような注文サイトをつくる。仕様書ができたら自動的に価格と納期も表示され

の微細加工によるアクセサリーの会社「湯之上製作所」を設立したとすると(図1)。まず、HP(ホームページ)を立ち上げる。日本語と英語はもちろ

このように工夫する。このようにして顧客に見つけてもらって受注したら、PC上で3D設計を行い、顧客にデザインを確認してもらい、データをファブラボに送って製造を委託する。これならば、

「あなただけの特別なアクセサリー」を1個からつくることができる。例えば、図中の湯之上製作所やファブラボ

でもメーカー」になれることだ。これまで製造業と云えば、売れ筋のものを大量生産することが常識であり、そのためには大規模な投資が必要だった。しかしこのやり方

ニーズは、世界70億人の中に潜在的に存在する。これをかき集めることができる大きなビジネスになる。問題は、世界70億人のニーズをどうやってかき集めるかということだ。インターネット

のアクセサリーを1個からつくることのできる。例えば、図中の湯之上製作所やファブラボ

「あなただけの特別なアクセサリー」を1個からつくることのできる。例えば、図中の湯之上製作所やファブラボ

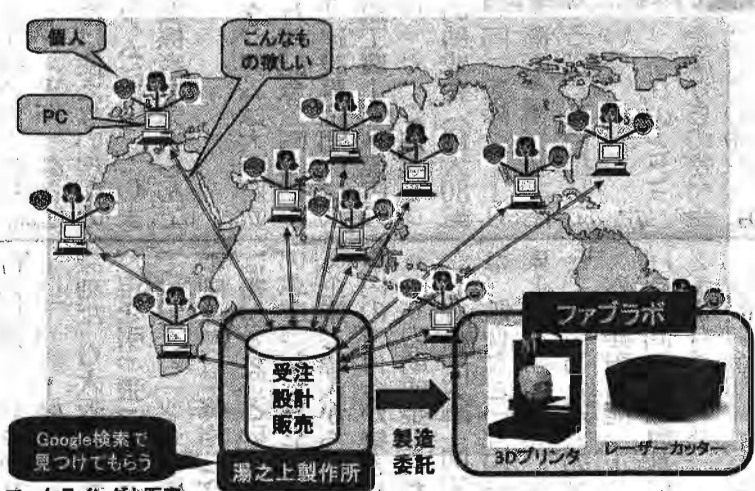


図1 ファブラボを利用して「一人でもメーカー」に

最大の問題は、NAZEおよび関係する中小企業のHPが日本語版しかないことだった。少なくとも英語にしなければ海外からは受注できない(それ以前にHPがない企業もある)。親子代々続けてきた老舗の社長などは「良い技術は人伝で伝わる」と主張するが、この古い考えは即刻改めるべきである。せっかくの良い技術、世界70億人に使ってもらわなければならない。科学者)

「あなただけの特別なアクセサリー」を1個からつくることのできる。例えば、図中の湯之上製作所やファブラボ